

本市初

施設一体型小中一貫校

「(仮称)交野市立交野みらい学園」

基本設計が完成

交野市立第一中学校区で、令和7年4月に開校となる本市で初の施設一体型小中一貫校「(仮称)交野市立交野みらい学園」の整備に向けた基本設計が完成しました。

☎ まなび舎整備課 ☎ 810-8010



まなびの森

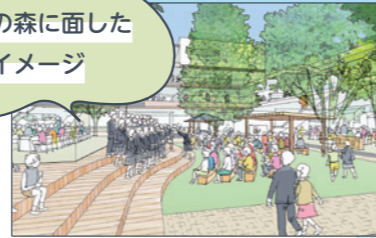
交小の森を継承した「まなびの森」は、学年交流や学校行事、地域との交流活動などさまざまな学校教育活動や放課後児童の居場所として活用できる空間となります。



音楽室とまなびの森が一体となった音楽会などの行事の際には、階段をステージやひな壇としても使用することができます。また4階からつながる階段は、避難の際には有効に機能します。

「多目的ホール」は、まなびの森に面した1階校舎中央付近に配置し、「まなびの森」との一体利用や、さまざまな教育活動に合わせた使用が可能なサブアリーナとなる計画です。

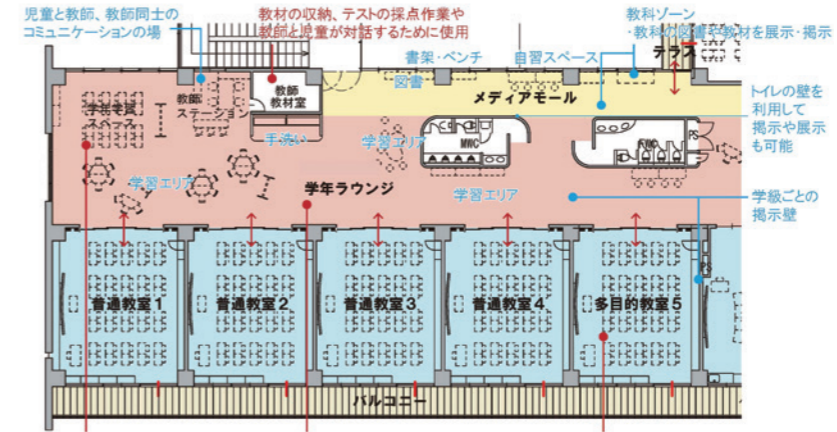
まなびの森に面した音楽室イメージ



まなびの森から見た多目的ホールイメージ



教師と生徒がつながる学びの場



普通教室まわりのイメージ

今までの学校では、廊下という動線ではなかった場所に、メディアセンターからつながるメディアモジュールを配置し、学びが広がりつながる計画としています。普通教室の前に学年ラウンジを配置し、普通教室の壁面を全面開放することで、普通教室と学年ラウンジとの一体的な使用が可能となります。広い学年ラウンジは学年集会などにも使用でき、教師ステーションや教師教材室、少人数学習でも使用できる学年学習スペースなども配置します。成長過程に合わせて置く家具や教材を変えることで、さまざまな教育活動に合わせて、柔軟に対応できる空間となります。

学年ラウンジと教師ステーションイメージ



学年ラウンジと普通教室イメージ



知的好奇心を触発するメディアセンター

図書室、パソコンルーム、視聴覚機能を備えた「メディアセンター」を、2階と3階の2層にわたって整備します。児童生徒が日常的に立ち寄れる学びの場として開かれた空間構成で、児童生徒が本やメディアを通じて調べ学習や読書の機会を得ることができ、「主体的、対話的、深い学び(アクティブラーニング)」がさらに深まる空間を、「まなびの森」に面した大きなテラスと中庭に挟まれた学校の中央部分に配置します。学びがつながり広がっていく、多様な学びの場を連続的、段階的に配置し、児童生徒の知的好奇心と学習意欲を誘い起こす計画です。

2階メディアセンターイメージ



3階メディアセンターイメージ



今年度、整備事業者の選定を経て、この基本設計に基づく実施設計に入り、令和4年度から整備工事の着工を進めます。「基本設計(概要版)」やCG動画、これまでの経過など詳細を市ホームページで公開しています。ぜひご覧ください。



<https://www.city.katano.osaka.jp/soshiki/gakkoukyouiku/manabi-seibi/>



青年の家1階ロビーで模型等を展示しています(5/31月まで)。